

# 学術企画

## JART 骨関節撮影分科会, JSRT 撮影部会・画像部会 『X撮影の標準化を考える』

司会 りんくう総合医療センター 中前 光弘  
司会 滋慶医療科学大学大学院 安藤 英次

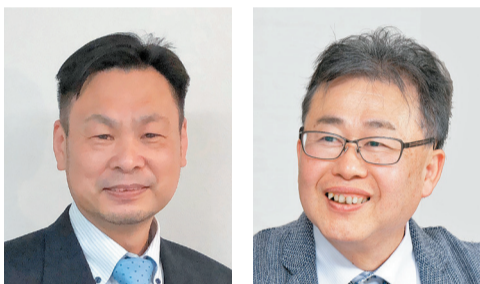
10月31日(木)  
16:10~18:00  
第1会場

- ①股関節X線撮影の現状について 昭和大学病院 菊原 喜高
- ②肩関節X線撮影の現状について 下田メディカルセンター 鈴木 義曜
- ③撮影システムについて 北里大学病院 関 将志
- ④デジタルラジオグラフィシステムにおける画質と撮影線量の理解 鈴鹿医療科学大学 東出 了

本学術企画③は、「X線撮影の標準化」について両学会員とともに考える場として企画しました。

JART骨関節撮影分科会には、過去に実施したアンケート調査結果から、①股関節X線撮影の現状について、昭和大学病院の菊原喜高先生、②肩関節X線撮影の現状について、下田メディカルセンターの鈴木義曜先生にご報告いただきます。

JSRT撮影部会には、2021-2022年度学術研究班として「単純X線撮影システムの標準化に関する研究(品質管理マニュアルの構築を目指して)」の活動を通して発刊した叢書から③撮影システムについて、北里大学病院の関 将志先生にご報告いただきます。また、JSRT画像部会には、撮影線量に関して、検出器の感度を含めた画質特性と被ばく線量に関連する撮影条件の設定についてDRLを活用した考え方を中心に④デジタルラジオグラフィシステムと撮影線量の理解について、鈴鹿医療科学大学の東出 了先生にご解説をいただきます。



司会

中前 光弘

安藤 英次

## JART 放射線管理士分科会・医療被ばく安全管理委員会, JSRT 計測部会

『JART with JSRT 計測部会 求められる線量管理時代  
~医療被ばく低減施設認定事業開始から20年  
これから認定取得を目指す方へ~』

10月31日(木)  
16:10~18:00  
第2会場

司会 名古屋大学 小山 修司  
司会 聖マリアンナ医科大学 川崎市立多摩病院 吉田 篤史

2020年4月より診療用放射線の安全管理に係る医療法施行規則の改正があり、「指針の策定」「研修の実施」「放射線による被ばく線量の管理及び記録その他の診療放射線の安全利用のための方策の実施」が定められ、国民に対し診療用放射線をより一層安全に利用することが求められているということは、会員皆様が広く知ることと思います。

JARTが20年前より取り組んできた医療被ばく低減施設認定事業は、まさに国民から求められる線量管理時代にあった事業であり、今後は一つでも多くの施設に認定を受けていただきたいと考えています。

今回のコラボ企画では、医療被ばく安全管理委員会より「求められる放射線診療の透明性」として、医療被ばく低減施設認定事業の意義を、JSRT計測部会より「実測による装置表示値の確認方法およびその重要性」として、線量管理のための実測のコツや重要性を、放射線管理士分科会より「医療被ばく低減施設認定を取得して」として、取得時に実際に取り組んだ事項やそれに伴う放射線検査に対する安全性の可視化について話していきます。

これから医療被ばく低減施設認定を受けようと考えている方々へ大変有意義な内容となっていますので、皆様奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

司会



小山 修司

吉田 篤史

司会



江端 清和

田淵 隆

## JART STAT 画像報告委員会, JSRT 撮影部会・教育委員会・学術委員会 『診療放射線技師によるSTAT画像報告』

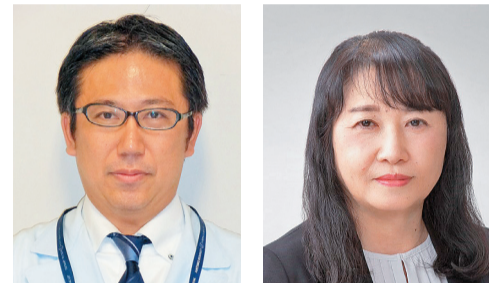
司会 順天堂大学医学部附属順天堂医院 木暮 陽介  
司会 岐阜医療科学大学 西出 裕子

11月1日(金)  
10:00~11:50  
第1会場

2010年4月の「画像診断における読影の補助において診療放射線技師を積極的に活用することが望まれる」という厚生労働省医政局長通知から約14年を経て、日本診療放射線技師会は日本医学放射線学会と共同で2024年3月に「生命予後にかかわる緊急性の高い疾患の画像(STAT画像)所見報告ガイドライン」を公開しました。

本企画では、第1部「STAT画像報告の現状と報告体制」として、①STAT画像報告におけるアンケート調査結果報告、②施設内でのSTAT画像報告体制の変化(小規模・中規模・大規模施設)について報告していただきます。そして、第2部「STAT画像報告のために必要な知識と技術」では、①STAT画像症例の見落としをしをしないためのポイント紹介、②一般撮影画像を支える放射線技術、③CT画像を支える放射線技術、④MRI画像を支える放射線技術について講演していただきます。

司会  
木暮 陽介(左)  
西出 裕子(右)



## 日本医用画像管理学会, JART 医療画像情報精度管理士分科会, JSRT 医療情報部会 『医用画像領域における医療情報再考』

11月1日(金)  
10:00~11:50  
第2会場

司会 旭川医科大学 谷 祐児  
司会 星総合病院 続橋 順市  
司会 熊本大学病院 池田 龍二

本企画は、医療情報を専門とする医療情報部会、医療画像情報精度管理士分科会、日本医用画像管理学会の3団体が共催します。同じ領域を扱いつつも、各団体の活動には異なる特色があります。医療情報部会は先進的な学術研究を、医療画像情報精度管理士分科会は実臨床の医療画像管理に必要な情報の発信を行い、日本医用画像管理学会は医療DXなどの社会情勢に応じた情報提供と研究・普及に努めています。本企画では、これまでの活動実績や今後の取り組みを紹介し、聴講者との対話を通じて放射線分野における医療情報の未来を議論します。皆様のご参加をお待ちしております。

講師



川俣 祐貴

加藤 雅士

秋田 裕介

石森 光一

## JART 診療報酬政策立案委員会 『診療報酬と必要とされる診療放射線技師』

11月1日(金)  
13:10~14:00  
第3会場

司会 日本診療放射線技師会 江端 清和  
司会 倉敷中央病院 田淵 隆

今回のシンポジウムでは次の令和8年診療報酬改定に向けて診療報酬政策立案委員会の考え方を紹介させていただきます。新潟大学の金沢勉氏には評価されるべき「医療安全」の考え方、順天堂大学の木暮陽介氏には評価されるべき医療の「質」の考え方を提案という形で紹介させていただきます。これまでの診療報酬要望という点数を目指してきた流れもありますが、より現実的で将来を見据えた方向性をご提案できればと思います。何かをしたら加算をつけるという考え方はすでに過去のものであり、現在議論されるのは「その行為で治療期間がどれだけ短くなるのか」、「その行為で医療・治療の質がどれだけ上がるのか」を数字で示すことが求められています。診療放射線技師は放射線技術の専門家であるということが前提であり、煩雑性や熟練度を語っても「そういう仕事ですね」といわれてしまいます。ぜひ皆さんと一緒にこれからの診療報酬に関する考え方をディスカッションできれば幸いです。